

お宝紹介!

第247回
九州産業大学図書館



「引き札」の紹介

宮丸由美子

1. はじめに

九州産業大学は、1960年に「九州商科大学」として発足しました。その後、1963年に「九州産業大学」に改称され、文系・理工学系・芸術系の9学部21学科、大学院5研究科を有する学生約10,500人の総合大学です。福岡の中心博多駅から普通電車で約15分という好立地にあります。

現在の図書館は1978年に開館したもので、約80万冊を所蔵しています。

本学は、産業界・地域社会との結びつきに重点を置いていることから、図書館では郷土資料を収集することを収書方針に掲げ、九州・沖縄地方、山口県の自治体資料を収集し、明治時代から大正時代にかけて配られた「引き札」等をデジタルアーカイブ化し、ジャパンサーチにも連携しています。

2. 「引き札」について

「引き札」とは、江戸時代から大正時代にかけての広告です。商品名、店名、住所などが書かれており当時の地域産業を知ることができます。また、図柄には、洋風化の様子など世相を映す絵柄も多く見られます。



◀ 諸綿製造販賣并二
諸品注文取次商
秋成末松 福岡
26×38cm

明治から大正期にかけて毎年各商店は、正月になると「引き札」を持って年始の挨拶に回っていたことから「正月用引き札」と言われるものも登場しました。描かれた絵柄は縁起物といわれるお



▲ 御蠟燭製造所并二餐附朱晒掛は注文次第 小山田本店
福岡 1901年 27×39cm 「応挙」の雅号あり



◀ 呉服綿糸并二阿ら
物商
高田利助 福岡
32×48cm



◀ 瀛船漕元問屋
川口屋支店 福岡
38×54cm



◀ 岩田屋呉服店
福岡 26×38cm

めでたい鶴亀・鯛や恵比寿・大黒などの福の神、松竹梅や人物では、二宮金次郎、昔話では浦島太郎なども登場します。下絵を描いた画家には、浮

世絵師や日本画家などがいます。

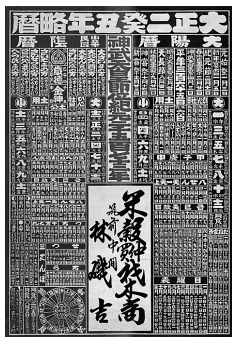
本学は、特に地域性を重視して、福岡県に特化した180余点を所蔵しています。

3. 一枚暦（広告暦）

一枚暦を正月に配布するという習慣もありました。



▲生魚仲買并ニ乾物卸小賣
久原屋作太郎 福岡
[1913] 54×39cm

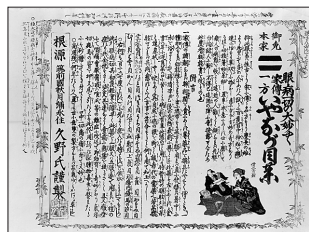


▲米穀仲買材木商
林磯吉 福岡
[1912] 54×39cm

一枚刷りの簡単な暦は、引き札として販売され評判がよかったようです。

4. 売薬の引き札

売薬の引き札は、江戸時代から盛んでした。薬の説明があるものは、長文のものが多く作られました。



◀家傳一方いやな目薬
久野氏 福岡
38×52cm



◀左：本家正明膏御めく寿り
調合取次所 福岡
69×25cm
右：正明膏須恵[目]薬
須原春陽堂 福岡
70×26cm

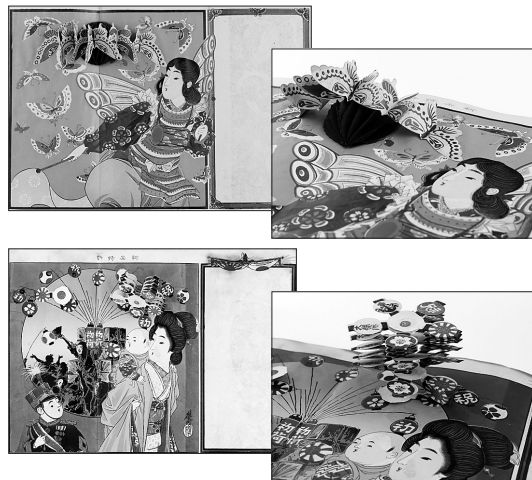
本学では、他の収蔵コレクションでは見いだせない筑前国糟屋郡須恵町「須恵目薬」の「引き札」9点を所蔵しています。中でも江戸時代須恵の眼

科医の祖と言われる高場順世（たかばじゅんせい）の秘伝創薬とされ、幕末から昭和20年代まで盛んに作られた目薬「正明膏（しょうめいこう）」の引き札が5種も含まれていることは稀有なことと思われます。

須恵の「正明膏」は、全国で高い評価を受けており、江戸時代には、京都・江戸・大阪など全国から多くの患者が治療に訪れました。そのため須恵では「民宿」が発達し、眼療宿場としてにぎわいました。

5. 立体の引き札

本学が所蔵する引き札の中で店名や商品名がない見本帖があります。その中でもたいへん珍しいものとしては「立体の引き札」があり、本学では3点を所蔵しています。実際に商品化されたのかどうかは、確認できていません。



6. おわりに

引き札展示を開催した際に、ご子孫の方からご連絡をいただくことができました。今後も郷土資料保存や公開を行っていく予定であります。

■九州産業大学図書館ギャラリーページ
<https://libwww2.kyusan-u.ac.jp/archive/>

■参考文献

- ・「須恵の眼科医①」『広報すえ』
<https://www.town.sue.fukuoka.jp/material/files/group/12/1122.pdf>
 - ・須恵町誌編集委員会（1983）『須恵町誌』（須恵町役場）
 - ・増田太次郎（1976）『引札絵びら錦絵広告』（誠文堂新光社）
（みやまる ゆみこ：九州産業大学図書館）
- [NDC10：090 BSH：1. 図書館資料 2. 九州産業大学図書館]